

検体検査の解説

一般的な検査の解説です。ご不明な点は医師にご相談ください。

栄養状態の検査

総蛋白 アルブミン	栄養状態の指標です。肝機能障害や腎機能障害などで総蛋白とアルブミンのバランスが崩れます。
尿ケトン体	体内の栄養不良状態(吸収不良状態)を示します。

肝機能の検査

総ビリルビン 直接ビリルビン	肝機能障害で高値を示します。黄疸の指標となります。
AST(GOT) ALT(GPT)	肝臓の細胞に多く分布する酵素です。細胞が破壊(肝障害)されると血中濃度が上昇します。ASTは肝臓のほか、心臓・骨格筋・赤血球にも分布します。
γ-GTP	肝臓に分布し、肝障害・アルコールの常飲では高値を示します。基準値は男女で大きく異なります。
コリンエステラーゼ	肝障害・栄養失調・農薬中毒などで低値を示します。
血小板数	止血の働きをします。肝障害の指標ともなります。
尿ウロビリノーゲン	肝疾患、胆嚢・胆道系疾患、発熱などの指標となります。
尿ビリルビン	肝・胆嚢・胆道系疾患、膵疾患などの指標となります。

骨格筋の検査

ALP	肝臓・胆道疾患で高値を示すほか、骨代謝の指標ともなります。
LDH CPK	肝疾患・心疾患・血液疾患などの異常を見つけます。特に脳や心臓の梗塞状態を反映する重要な項目です。CPKは運動後(筋肉痛)などでも高値を示します。

脂質の検査

総コレステロール LDLコレステロール HDLコレステロール	動脈硬化の防止・促進に関わる重要な要素です。特にLDLコレステロールは悪玉コレステロールとされ、高値の場合は注意が必要です。またHDLコレステロールは善玉コレステロールとされています。
中性脂肪	食事の影響を受けやすく、脂肪の代謝状態を反映します。高値の場合は、肥満や脂肪肝、動脈硬化などに注意が必要です。
動脈硬化指数	動脈硬化を起こし易いかを示します。総コレステロールとHDLコレステロールの値より算出します。

腎臓・尿路系の検査

尿素窒素 クレアチニン	腎機能を表現する代表的項目です。腎機能の低下が数値を上げる要因ですが蛋白質の大量摂取も数値上昇を伴います。
尿酸	血液中に増加すると痛風や結石の原因となります。
尿蛋白	腎臓疾患や尿路系疾患で著しい陽性を示します。
尿潜血	尿中に含まれる赤血球を調べます。腎臓・膀胱・尿路系での出血を反映します。

電解質の検査

Na K CL	代表的な電解質です。体内のイオン濃度バランスを調べます。
カルシウム	Caの吸収、骨疾患を反映します。
リン マグネシウム	生体の必須元素です。腎機能、内分泌の異常により変動します。特に腎機能を反映します。

糖尿病と膵臓の検査

血糖	血液中のブドウ糖量です。ブドウ糖の摂取・代謝を反映します。
HbA1c	長期(1~2ヶ月前程度)の血糖値と関連いたします。高血糖状態が長く続くと高値を示します。
尿糖	尿中に排泄される糖を調べます。糖尿病発見の手掛かりとなる最も手軽な検査です。
アミラーゼ	消化酵素として主に膵臓機能を反映します。

貧血の検査

血清鉄	赤血球の血色素を構成する金属です。
不飽和鉄結合能	鉄を輸送する蛋白が鉄と結合する余力を示します。
赤血球数	細胞に酸素を運ぶ働きをします。
ヘモグロビン	赤血球中に含まれ、酸素と結合します。
ハマトクリット	血液中の血球成分量を相対的に表現します。

炎症系の検査

CRP	炎症・感染症などにより出現する特殊な蛋白質です。
白血球数	炎症性疾患や壊死(細胞破壊)などで著しく増加します。

【採血結果総合案内表】

ホルモン採血について

項目名称	ホルモンの種類	基準値範囲	説明
エストラジオール (E2)	女性ホルモン	20～500	女性ホルモンであるエストロゲン的一种です。 ピルを服用している場合は低値(10.0以下)になることがあります。が心配ありません。 更年期以降は分泌が低下するため骨粗鬆症や高脂血症のリスクが高まります。
テストステロン	男性ホルモン	10.8～56.9	女性にも男性ホルモンがあります。 高値になると月経不順、吹き出物、肌荒れ、毛深さなどの症状がでることがあります。
プロラクチン (PRL)	乳腺ホルモン	6.1～30.5	高値になると乳汁漏出、性腺機能低下により月経不順や着床障害などの症状がみられる場合があります。 安定剤や胃薬の服用、脳下垂体などの疾患があると高値になることがあります。 バストサイズとは無関係です。
黄体形成ホルモン(LH)	脳中枢ホルモン	2～10	性腺刺激ホルモンの一種で黄体ホルモンをコントロールし、排卵を起こすために必要なホルモンです。 ピルを服用している場合は低値になることがあります。 高値では閉経後や更年期、他疾患を示すことがあります。
卵胞刺激ホルモン (FSH) 精密測定	脳中枢ホルモン	2～10	上記 LH 同様、性腺刺激ホルモンの一種で女性ホルモンをコントロールし、卵胞の発育を促進させる働きをします。低値になると月経不順を引き起こすことが考えられます。 ピルを服用している場合も低値になることがあります。 高値になると更年期の可能性や閉経が考えられます。
プロゲステロン	黄体ホルモン	1～30	子宮内膜を受精卵の着床と発育に適した状態にし、妊娠に必要なホルモンです。低値になると月経不順や着床障害となる場合があります。高値では妊娠の可能性や他の疾患の場合があります。

LT:未満 GT:以上

※ ホルモン値は、年齢、月経周期(卵胞期・排卵期・黄体期)、閉経後などにより変動します。

※ 月経不順がある方、赤ちゃんがほしい方、継続してピルを服用されている方、更年期症状のある方など、患者様のお身体の状態によりホルモン値の見解や治療方法は変わります。

腫瘍マーカー採血について

腫瘍には**良性腫瘍**(子宮筋腫、卵巣のう腫、子宮内膜症など)と**悪性腫瘍**(子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんなど)があります。

腫瘍マーカーの数値が高い場合、全て悪性腫瘍というわけではなく、良性でも高くなります。

良性で高い場合は、今後サイズが大きくなる可能性、数が増える可能性が高いことが考えられます。

項目名称	腫瘍マーカーの種類	基準値範囲	説明
CA125	腫瘍マーカー (婦人科系全般)	35 以下	卵巣がんで特に高値を示します。 がん以外では、子宮内膜症、子宮や卵巣の良性疾患、月経周期や妊娠でも変動します。 高ければサイズが大きくなる可能性、良性腫瘍の数が増える可能性を示唆します。

以下の腫瘍マーカーは良性か悪性かを見分ける検査項目になります。

項目名称	腫瘍マーカーの種類	基準値範囲	説明
CA72-4	腫瘍マーカー (卵巣がん、消化器がんなど)	6.9 以下	卵巣がん、消化器がんなどで高値を示します。
HE4	腫瘍マーカー (卵巣がん)	【閉経前】 70 以下 【閉経後】 140 以下	卵巣がんで高値を示します。卵巣がん細胞の浸潤、転移に関与していることが推定されます。 また、高値で卵巣がんの可能性が高くなります。
ROMA 値	卵巣悪性腫瘍推定値 (卵巣がん)	【閉経前】 7.4 未満 【閉経後】 25.3 未満	CA125 と HE4 の腫瘍マーカーと閉経の有無を組み合わせる算出します。高値で卵巣がんの可能性が高くなります。

項目名称	検査の種類	基準値範囲	説明
D 値	血栓症の指標	1.0 以下	血栓症で上昇します。血栓症の予測は出来ません。
Fe (血清鉄)	血液の鉄の量	50-170	血液は鉄から作られます。貧血の指標であるヘモグロビンが正常でも、血性鉄が少ないと隠れ貧血と言われ、ふらつき、めまい、息切れなどが起こります。
フェリチン (貯蔵鉄)	体内の貯蔵鉄を反映	5-157	血液は鉄から作られます。貧血の指標であるヘモグロビンが正常でも、フェリチンが少ないと隠れ貧血と言われ、ふらつき、めまい、息切れなどが起こります。

医療法人社団みぶな会 産科・婦人科ひなたクリニック

札幌市中央区北 3 条西 4 丁目 1-1 日本生命札幌ビル 3F

理事長 三橋 裕一